スペインスケッチ紀行(3) アンダルシアの都市環境

専門会員 小 泉 実 Minoru Koizumi

1. グラナダ

千夜一夜の世界に誘うグラナダのアルハンブラ宮殿は、スペイン旅行における最高のビューポイントと云えよう。グラナダとは、果物のザクロのことを云う。

それは外観に比して中身の豪華なことに例えているの

である。ここでは明りの環境としてとらえてみることにした。アラヤネスの中庭では各エレメントの昼光率（但し、ここでは、直射光を含む全天空照度の比）を測ってみる（図1⑦）。

昼光採光による様々な明りが、イスラム文化の造形をあますところなく表現していた。

① スポットライト

② ブラケット

④ アプローチライト

③ 足下灯

⑤ 低ボールライト

⑥ アルハンブラ鳥瞰

	エリア	照度 (lx)	昼光率 (%)
1	中庭 (直射光)	48,000	100
2	庭側のアーチ内	4,500	10
3	室側のアーチ内	150	0.3
4	中室の入口	65	0.13
5	中室内	16	0.03
6	最奥の室内	6	0.01

⑦ アラヤネス中庭の昼光率（直射光を含む全天空照度の比）

⑧ あかりマド

図1 アルハンブラの明り環境

2. コルトバ

コルトバの人口はただいま31万人であるが、今から、1000年も前に100万人に達していたと云う。

ここに集って来たヨーロッパの人達は、アラビア語でアリストテレスやギリシャについて学んだ。

この地は、古代と中世の架橋的存在であった。メスキータはもともと西ゴート族の人々が使っていた教会であり、それがイスラム社会になってから、首都バグダードに負けないようなモスクの建設を試みて完成時には

25,000人の信者を収容するまでになった。

そして、レコンキスタのあと、キリスト教徒により大改造がおこなわれ、今日のようになったのである。

沢山の柱を結ぶ派手な柄のアーチは、高い所から吊下げられたシャンデリアによって、浮びあがり、オレンジの内庭をみると手のこんだ外灯が設置されていた(図2④)。

今回はコスタデルソール周辺の環境について紹介する。

①シャンデリア
見上図

②メスキータの内部と照明

③メスキータ
鳥瞰図

④オレンジの内庭に
ある外灯

⑤オレンジの樹

図2 メスキータの明り環境